

「一般社団法人まなびのみなと」が主催された「高校生マイプロジェクト」を見学しました。

2024年1月28日(日)広島市中区の安田女子高等学校で開催された「全国高校生マイプロジェクトアワード2023 広島県 Summit」を見学(参加)しました。

高校生が探究活動を発表する催しで広島県内の高校生、サポーター、保護者等総勢200名近い方々が参加され開催されました。高校生は、32チームが参加し、7つの教室に分かれて、教室毎で発表を行いました。昨年度16チームの参加から倍増です。主催者の地道に行われた広報活動の賜物と思われれます。

マイプロジェクトとは、高校生が「主体性」をもって、自ら気づいた問いを「探究」することを支援する事業で、東京のNPO法人カタリバが2013年ころから始められ、現在全国展開しているところです。広島県では大崎上島に拠点を持つ「一般社団法人 まなびのみなと」が主体となって2021年度から取り組まれています。



高校生が自らアクションを起こしたことにより気づいたことなどをまとめ、順番に発表します。そして、発表を聞いた参加者が新たな観点で質問し、アドバイスやヒントを与えることにより、参加者全員が成長することを目的としています。最初に主催者より、会の主旨として、資料の出来栄えや発表の優劣を競うものではなく、「学び」の共有である旨が説明されました。

高校生の発表は、自発的に取り組まれているものが多く、自分自身のアクション/体験による裏付けがあるため、熱い思いが伝わり、質問に対しても、具体的に、自信をもって生き生きと回答している姿がとても印象的でした。

各教室には企業やNPO法人、大学関係の方などがサポーターとして二人ずつ参加され、発表に対して、質問やアドバイスなどをされていました。コメントの中には、「知り合いに詳しい人がいるから紹介してあげる」などもあり、発表をきっかけにさらに世界が広がっていく感じ

がしました。

高校生の発表の前後に、大人の参加者は別室にて、大人同士の交流をする機会が設けられました。まず発表前に、5名ごと10テーブルに分かれ、各テーブルで自己紹介などをした後、主催者から、見学ではなく参加することを意識づけられました。そして発表後には、発表に参加した振返りのセッションが設けられ、発表内容について感想の共有化などを行いました。確かに、“見学”に比べて、“参加する”を意識することにより集中力も高まり、振返りをすることにより、理解が深まり、大人も学びを実感することができるとてもよい企画だと感じました。

参加された保護者の方は、当初、自分の子の発表を見て帰るつもりだったが、企画の内容がとても面白く、高校生の熱い発表に引き込まれ、つい最後まで留まることになったと話されていました。また、引率で来られた先生は、普段ほかの学校の探究の内容を知る機会がないので、他



校の探究活動の内容、進め方が非常に参考になったと言われていました。そして、参加された教育関係の方は、高校生のタイミングで実施することはとても重要で、高校生の立場だから許される面もあると言われていました。実際、高校生からメールでインタビューを受け、対応された経験があるそうで、社会人視点で一般常識などを含めたアドバイスをしたところ、とても感謝されたそうです。社会全体で高校生の探究活動を理解し、バックアップする体制がもっと整備されていけば、さらに高校生たちの成長を促すことができるのではないかとされていました。

この活動は高校生同士が学校の垣根を超えて交流し、高校生と大人が話をすることにより世界が広がり、大人同士が交流することにより大人たちもレベルアップし、高校生の未来を考える伴走者となって支えることができるようになり、高校生も大人も共に成長する仕組みになっています。このような活動の輪が広がっていけば、より地域全体の活性化につながるのではないかと感じました。

「一般社団法人まなびのみなど」は、広島県豊田郡大崎上島町で地域おこし協力隊員が3年間の任期終了後も島内に残って活動ができるようにと結成されました。そこで取り組んだプロジェクトが全国から注目・評価され基盤ができたので、現在は取り組みを広島県全域に広げ、教育と町づくりを行政以外の立場で推進することを主目的として活動されています。

(佐々木)